

**（仮称）第2次西東京市農業振興計画（素案）
策定に伴う参考資料**

平成26（2014）年度～平成35（2023）年度

平成25年12月

西東京市

目 次

1	農業振興計画（平成 16（2004）年 3 月）の成果	1
2	各種アンケート結果概要	10
3	西東京市農業振興計画推進委員会	20
(1)	推進委員会委員からの提案事業について	
(2)	西東京市の農業を持続するための提案 ～都市農地に係る税制について～	

1 農業振興計画（平成 16（2004）年 3 月）の成果

平成 15（2003）年度（計画期間：平成 16（2004）年度～平成 25（2013）年度）に策定した第 1 次の西東京市農業振興計画について、当該計画の実施・検討状況は次のとおりです。

1 市民と進める農地保全

（1）生産緑地の保全

項 目	内 容	実施・検討状況
①関連計画による農地の位置付け	・都市計画マスタープラン、緑の基本計画等と連携した保全(緑地空間) ・防災計画と連携した保全(防災空間)	・各計画に位置付け ・平成 19（2007）年 11 月 9 日 災害協力農地の協定締結（1,260a、99 筆、32 戸）
	・農地の重要性と農地確保のための情報提供（買い上げの財政負担の検討）	▲実施実績なし
②農業体験農園の整備	・農業体験農園の増設 ・支援制度の確立、普及	・現在 5 園開設 ・初期整備への補助実施（上限 200 万円/軒） ・市報での利用者募集の支援
③生産基盤の整備	・都市農業支援総合対策事業等の制度 P R と活用	・都市農業経営パワーアップ事業実施（パイプハウス、防災兼用井戸等の整備支援）
④市民農園・家族農園の位置付け	・市民農園及び家族農園は、相続等により持続することが困難になるため、農家の意向等を考慮しつつ、農業体験農園の普及を基本とする。	・市民農園現在 5 園開設、家族農園 1 園開設 【課題】 ・農業体験農園との差別化、位置付けの整理が必要
⑤生産緑地地区の再指定	・より確実な保全策として農家の意向を踏まえた生産緑地地区の再指定を検討する。	・意見集約のみ対応

（2）多面的機能を活かした農地保全

項 目	内 容	実施・検討状況
①農地へのごみ投棄の防止	・農地へのごみ投棄の問題の市民啓発 ・市民も含めた防止活動を推進 ・農地への P R 看板の設置	・ごみ減量推進課において看板設置 【課題】 ・実態把握には至らず
②農地周りの環境美化の推進	・市民、地域住民への環境美化の呼びかけ ・市民、地域住民との協働による植栽の推進	▲事業実績なし
③防災農地の維持	・J A、行政の検討組織の設置 ・農家、J A と行政、地域住民との協定による災害時における農地の活用	・平成 19（2007）年 11 月 9 日 災害協力農地の協定締結（1,260a、99 筆、32 戸） ・締結に当たっては J A と市での検討・調整を実施
④学校農園の促進	・学校に身近な農地の実態把握 ・学校と農家との協議による検討実施	・平成 24（2012）年 6 月現在、6 園開園中（市立小学校にて）

⑤適正な農地管理の推進	・農地の実態把握と肥培管理指導	・毎年、農地利用状況調査（農地パトロール）実施（農業委員会）
⑥都市と農業が共生するまちづくりの推進	・農業者、市民、行政が連携した体制づくり	・平成 25（2013）年 3 月「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画（改定版）」策定。事業推進中

2 魅力ある農業経営の促進

（1）農業経営体の育成

項 目	内 容	実施・検討状況
①認定農業者への支援	・認定農業者制度の普及と経営改善計画策定に向けての相談・助言 ・支援センターの設置による相談機能の充実 ・利子補給等の支援策の検討	・現在 48 名（平成 24（2012）年 7 月現在） ・認定農業者連絡会を組織 【課題】 ・認定農業者のメリットが見えにくい。農業委員会と認定農業者の情報共有の場が必要
②生産環境・施設の整備	・都市農業支援総合対策事業等の制度 P R と活用	・都市農業経営パワーアップ事業実施（パイプハウス、防災兼用井戸等の整備支援）
③農業経営診断による経営健全化	・相談体制の充実 ・専門家による診断等	・企業的農業経営者育成対策事業実施（複式簿記講座の開催：東京都農業会議）

（2）経営管理の合理化の促進

項 目	内 容	実施・検討状況
①家族経営協定の締結の促進	・協定実施経営体の事例、情報提供 ・希望農家の把握と研修の実施 ・個別農家の協定締結	・協定農家世帯数 26 名（平成 24（2012）年 7 月現在） 【課題】 ・家族経営協定締結のメリットの提示が必要
②経営管理の改善	・青色申告の実施 ・複式簿記記帳の促進	・企業的農業経営者育成対策事業実施（複式簿記講座の開催：東京都農業会議）
③研修、講座の実施	・パソコン・農業簿記講座の実施 ・経営研修の実施	・企業的農業経営者育成対策事業実施（複式簿記講座の開催：東京都農業会議）
④経営相談の充実	・農業経営維持を基本とした不動産経営、管理指導	▲実施実績なし

(3) 営農形態に応じた支援の導入

項 目	内 容	実施・検討状況
【野菜農家】		
①環境にやさしい農業の支援	・土づくり等に係る助成 ・農業技術の普及 ・廃食油のバイオディーゼルの活用	・安全安心農業推進事業（堆肥購入補助、有機質肥料購入補助、フェロモン剤購入補助） ▲バイオディーゼルの活用は実施せず。
②共同直売・定期市の開催	・参加希望農家の把握、場の提供	・J Aにて定期的な野菜の即売会を実施
③産直プロジェクト（eマーケット）の普及	・制度、実施事例の情報提供	▲実施実績なし
④農業体験農園の増設	・農業体験農園の拡充	・現在5園開設 ・初期整備への補助実施（上限200万円/軒） ・市報での利用者募集の支援
【植木・花き農家】		
①公共利用の推進	・公共施設緑化への地元の植木、花きの導入	▲実施実績なし
②新品種導入の支援	・屋上緑化等に対応した品種導入 ・新品種の情報提供 ・事例視察、研修の実施	▲実施実績なし
③記念花木の利用推進	・誕生、結婚、新築等市民の記念日植樹の活用の検討	▲実施実績なし
【果樹農家】		
①新品種導入の支援	・新品種の情報提供 ・事例視察、研修の実施	・J Aにて実施
②観光農園の普及	・ぶどう、梨の産地化の推進 ・市民への観光農園の情報提供 ・新たな観光農園の検討（フルベリー等）	・おでかけマップでの紹介 ▲観光農園開園支援等の実績なし
③うめ、くりを活用した農業体験の普及	・農家の実態把握 ・栽培、加工の一貫した農業体験の検討、普及	▲実施実績なし

(4) 農業関係団体の交流と育成

項 目	内 容	実施・検討状況
①生産者組織の交流による生産体制強化	・両J Aの野菜、植木、花き等生産者組織の話し合いの実施 ・共同出荷、相互支援の実施	・J A内部での情報交換等は実施 ・市の生産組織への運営補助実施
②異種目、世代間交流の促進	・野菜農家と植木農家の交流の拡大 ・世代別の女性農業者の経験交流等の実施	・市内産農産物活用推進事業での料理教室等実施（J A女性部の知見活用）
③J A東京あぐりとJ A東京みらいの共同事業の促進	・市民まつりの充実 ・直売、定期市の共同開催 ・地域イベントへの参加等の相互協力 ・生産者組織の一体化の検討、実施	※J A合併 ・J Aにて定期的な野菜即売会実施 ・市民まつりへの継続参加 ・りさいくる市等での野菜販売実施

3 多様な担い手の育成

(1) 後継者の確保、育成

項 目	内 容	実施・検討状況
①青年後継者の組織づくり	・後継者組織の支援 ・後継者間の交流の促進	・J A青壮年部での交流事業 ・20代の認定農業者も誕生
②新規就農者の技術支援	・J A等による営農相談、経営指導の充実 ・後継者組織による受け入れ体制づくり ・農業に関する制度の普及	・J Aで営農指導 ・J A青壮年部等での情報交換実施 ・フレッシュ&Uターンセミナー実施（東京都、J A東京中央会）
③生産技術の交流、伝承	・経験ある農家での研修 ・経験交流会の実施	▲実施実績なし

(2) 女性農業者の活動の支援

項 目	内 容	実施・検討状況
①交流の場づくり	・生産組織別の女性農業者の懇談会開催、親睦、経験交流の促進	・J A女性部研修会等の実施 【課題】 ・女性農業者の実態把握が必要
②組織づくりの支援	・若年世代を対象とした女性農業者への呼びかけ ・組織づくりの実施	・J A女性部研修会等の実施
③研修等への参加の促進	・農業研修情報の提供、参加の促進 ・農業経営に関する研修、営農相談への参加の促進 ・農業に関する制度の普及	・J A女性部研修会等の実施
④農産物加工の体制づくり	・経験者、希望者の把握 ・経験交流、事例研修の実施 ・加工実践をととした体制づくり ・農産物加工等の起業の支援	▲実施実績なし

(3) 高齢農業者の支援

項 目	内 容	実施・検討状況
①定年帰農者の支援	・J Aによる営農相談、経営指導の充実	・フレッシュ&Uターンセミナー実施（東京都、J A東京中央会）
②農作業体験をととした販売の普及	・畝売り、株売り等の販売の普及 ・うめ、くりの栽培、加工体験による販売	・農業団体によるじゃがいも堀り、幼稚園等との連携による果樹収穫体験を実施（各農家により実施）
③農業技術の有効活用	・各種農園における市民への指導 ・公民館、学校教育における講師活用	・公民館における農業講座、学校農園の開設

(4) 市民による援農体制づくり

項 目	内 容	実施・検討状況
①農業体験農園経験者の組織化	・農業体験農園で経験した市民の援農意向把握 ・農業ヘルパー制度の検討	▲実施実績なし
②農産物加工の実施	・市民への参加の呼びかけ ・加工体験をととした支援者の育成	・「めぐみちゃん小麦」による手打ちうどんづくり等 【課題】 ・市内に加工実施の例は少なく、導入意向も少ない。
③直売等販売の支援の実施	・市民への参加の呼びかけ ・販売活動をととした支援者の育成 ・市民団体への販売委託	・おでかけマップでの直売所PR ・のぼり旗の作成・配布 ・市内産農産物活用推進事業でのめぐみちゃん段ボール等の作成支援
④援農ボランティア育成事業の活用	・行政情報（広報、ホームページ等）を活用した事業のPR ・受け入れ農家の把握、確保 ・相談窓口の充実	・市HPでの紹介 ・「東京の青空塾」を活用した援農ボランティアの養成講座の実施（修了証受領者平成23（2011）年度末71名） ・スキルアップの場として農のアカデミー体験実習農園事業への参加

4 市民に身近な生産加工流通体制づくり

(1) 安全な農産物の供給

項 目	内 容	実施・検討状況
①農家連携による堆肥づくりの検討	・野菜農家と植木農家の意向把握、相互の情報提供 ・検討組織の設置と実践	▲実施実績なし
②剪定枝等のチップ化の支援	・先進事例の把握 ・植木、園芸団体との協議による方策検討 ・支援制度の検討	▲実施実績なし
③トレーサビリティ（生産履歴）の徹底	・法規制の遵守のために情報提供、注意喚起	・各農家で生産履歴の記録を実施している。 ・JAで管理システム構築
④農産物認証制度の普及	・行政、JAをととした制度PRと活用	・東京都による「特別栽培農作物認証制度の実施」
⑤エコファーマー認定の普及	・行政、JAをととした制度PRと活用	・東京都により実施（平成24（2012）年度現在13名）

(2) 地域ブランドの確立

項 目	内 容	実施・検討状況
①めぐみちゃんブランドの普及	・めぐみちゃんブランドを活用した特産品の生産・流通の推進	・市内産農産物活用推進事業でのめぐみちゃん段ボール等の作成支援 ・イベントでのめぐみちゃん着ぐるみ参加
②女性農業者等による加工品開発	・農産物加工の体制づくり（前掲）	・市民向けには、J A女性部の協力による市内産農産物活用料理教室等を実施 【課題】 ・市内に加工実施の例が少なく、導入意向も少ない。
③企業、市民との連携による加工品開発	・商工業者団体との交流の実施 ・市内の菓子、うどん等の食品加工業者と市内産農産物を活用した食品の開発 ・関心ある市民との交流と加工品開発	・都市と農業が共生するまちづくり事業における「めぐみちゃんメニュー事業」の実施（市内商工業者との協働）

(3) 特色ある直売の検討・実施

項 目	内 容	実施・検討状況
①共同直売所の設置の検討	・J Aを主体に行政、市民団体、民間団体が参加する検討組織の設置 ・施設内容、運営方法等の検討	・各主体により検討
②空き店舗活用による直売	・商店会とJ Aの交流の実施 ・空き店舗の情報の把握と、直売の可能性の検討、実施	・東伏見ふれあいプラザでの農産物直売実施
③定期市の開催の検討	・駅構内、銀行駐車場等集客しやすい場所の把握 ・定期販売できる体制の検討 ・通勤者を対象とした夕方から夜間の販売の検討	・J Aにより定期的に野菜即売会の実施
④行事と連携した直売の拡大	・行政機関、商店街等の民間団体のイベント情報の把握 ・主催団体との連携による直売の可能性の追及 ・自治会等の地域行事と連携した直売の検討	・市民まつりへの継続参加 ・りさいくる市等での野菜販売実施 ・地域におけるイベントでの野菜即売

(4) 多様な流通販売体制づくり

項 目	内 容	実施・検討状況
①量販店における販売の充実	・生産者組織の充実、参加者の拡大 ・生産量の確保と供給体制づくり	・スーパーマーケット等との取引実績あり（市内の農業者組織とスーパーマーケット等との取引）
②青果店における販売の検討	・青果店組織と生産者組織の交流の実施 ・販売体制の検討	・小売店（青果店以外も含む。）における野菜販売
③学校給食の拡大	・教育委員会、J A、参加農家の交流の実施	・小・中学校全校にて実施（野菜全体購入額のうち、約11%が市

		内産農産物（平成 23（2011）年度） 【課題】 ・農家と学校との直接契約のため、流通に関する統一ルールができていない。
④インターネット販売の促進	・ J A、行政による研修、普及 ・ J A、行政、市民団体、民間団体のホームページとのリンク	・ 農家個人での実施実績あり
⑤地元飲食店における活用の拡大	・ 飲食店団体と J A、生産者団体の交流実施 ・ 活用方法と活用の P R の検討	・ 農家個人でのレストラン等への販売実績あり ・ めぐみちゃんメニュー事業の実施
⑥生協等との連携	・ 生協等消費者団体と J A の交流の実施 ・ 販売の可能性の検討	・ 生協等との取引実施（各農家により実施）
⑦農作業体験を通じた販売の普及	・ うめ、くりのオーナー制の検討 ・ 畝売り、株売りの普及 ・ 農産物加工、調理技術の指導と普及	・ 農業団体によるじゃがいも堀り、幼稚園等との連携による果樹収穫体験を実施（各農家により実施）

（５）消費者ニーズの的確な把握

項 目	内 容	実施・検討状況
①消費者との交流によるニーズ把握	・ J A 主体の消費者団体等との定期的な交流の実施 ・ 団体をとおしたアンケート等によるニーズの把握 ・ モニター制度の検討	・ 市内産農産物活用事業での料理教室実施 ・ 食育推進レシピ（めぐみちゃんレシピ）作成事業実施 ・ 市内で小麦作り食育事業実施
②学校給食関係者の交流	・ 栄養士、教員、P T A、教育委員会と参加農家の話し合いの場の設定	・ 教育委員会にて実施
③量販店と販売農家の交流	・ 量販店、J A、販売農家の定期協議の実施	・ スーパーマーケットとの取引実績あり（市内の農業者組織とスーパーマーケットとの取引）
④多様な情報把握の検討	・ ホームページによる意見、ニーズ把握 ・ モニター制度の検討	▲実施実績なし

５ 農家と市民の交流の促進

（１）情報・交流の場づくり

項 目	内 容	実施・検討状況
①農業情報の提供	・ 市ホームページ、広報紙等を活用した農業情報の提供 ・ 農業イベント、農家紹介等の農業情報紙の発行（J A 情報誌の活用も含め） ・ 直売所の紹介（マップの充実、更新）	・ 市 H P、市広報での情報発信 ・ 各種イベントの開催による市民への情報提供 ・ おでかけマップでの直売所紹介
②市と農家ホームページのリンク	・ 市の農業関係ホームページと、J A ・ 農家のホームページをリンクした情報の提供	▲実施実績なし ・ 農家個人ではホームページを数件立ち上げ
③市民まつりの開催	・ 市民まつりの充実	・ 市民まつりでの農産物販売実施

④商店街行事への参加	・ J Aと商店会との協議の実施 ・ 直売、農業情報提供の場づくり	・ 農業団体で農産物販売実績あり
⑤地域行事への参加	・ 地域の農業者と自治会等の協議の実施 ・ 直売、農業情報提供の場づくり	・ 地域におけるイベントでの野菜即売
⑥園芸相談窓口の検討	・ 園芸関係団体による相談体制づくり ・ J A、共同直売所等に窓口設置	・ 都市と農業が共生するまちづくり事業における「緑のアカデミー」の実施
⑦地域通貨活用との連携	・ 市内の地域通貨実施団体との交流 ・ 活用対象として援農の導入	▲実施実績なし

(2) 年齢・階層に応じた農業体験の場づくり

項 目	内 容	実施・検討状況
①幼児期、小学校低学年の収穫体験	・ J Aによるちびっこ農業教室の拡充 ・ J Aと小学校の協議による身近な収穫体験の場づくり	・ J A 青壮年部によるちびっこ農業体験教室実施 ・ 学校農園開園
②小学校中・高学年の学校農園体験	・ 小学校と地域農家の交流による体験の場づくり（隣接農地の活用：野菜だけでなく、うめ、くりの活用も検討） ・ 栽培、収穫体験プログラムの作成と体験の実施 ・ 収穫農産物の学校給食での活用	・ 学校農園開園 ・ 都市と農業が共生するまちづくり事業における「農のアカデミー体験実習農園」の開設・運営
③中高生の職業選択として援農体験	・ 中学校と J Aの協議による体験内容の検討 ・ 受入農家の体制づくり	・ 中学生の職場体験実施
④大学生の農業実習生の受け入れ	・ J A、農業委員会等に窓口の設置 ・ 受入農家の体制づくり	・ 東大農学部学生の実習受け入れ
⑤多様な農業体験の場の設置	・ 野菜栽培を主とした農業体験農園の設置 ・ うめ、くりを活用した栽培、収穫、加工体験 ・ 花の摘み取り、ガーデニングの体験の場づくり ・ 公園の樹木を活用した剪定体験 ・ 落ち葉はきと堆肥づくり体験	・ 農業体験農園開設支援、市民農園・家族農園運営 ・ 親子で野菜づくりにチャレンジ実施 ・ 都市と農業が共生するまちづくり事業における「農のアカデミー体験実習農園」開設・運営
⑥農産物加工・料理体験講座の開催	・ 公民館活動と連携した講座開催 ・ 農家の施設を活用した講座開催	・ 市内産農産物活用事業での料理教室実施 ・ 公民館における農業講座、消費者センターにおける料理体験等実施

(3) 農を活かしたまちづくり

項 目	内 容	実施・検討状況
①農業景観に親しむ散策会の開催	・ 農家の案内による地域の散策 ・ 四季の農産物、農業景観の鑑賞、把握	・ 農業景観散策事業実施
②農業マップの作成	・ 散策路と農産物、景観を紹介するマップの作成	・ おでかけマップの作成 【課題】 ・ 市民向けの様々なマップがあり、整理が必要
③地域施設、身近な空	・ 自治会等コミュニティ活動による場の	・ 都市と農業が共生するまちづく

地の植栽の促進	検討 ・地元の植木、花きを活用した植栽の実施	り事業における「緑のアカデミー」の実施 ・苗木の無料配布実施（～平成 23（2011）年度） 【課題】 ・地域コミュニティと農業との接点の構築が難しい。
④地域の食文化の継承	・市内産農産物を活用したコミュニティレストランの検討 ・うどん、漬物等の伝統料理の継承と活用	・市内で小麦作り食育事業等実施 【課題】 ・食材が市内産農産物に限らない。

2 各種アンケート結果概要

以下内容にて、アンケート調査を実施した。その結果を集計し、①農業者、②市民、③市民農園利用者、④商業者の意向について比較・分析を行った。

◆農業者アンケート調査

項目	内容
目的	・ 農業者の営農の状況、今後の営農意向、課題等の把握
調査対象	・ 農業委員会委員選挙人名簿登載者 280 名
配布回収方法	・ 郵送配布・郵送回収（平成 25（2013）年 2 月 5 日～2 月 19 日） ・ 督促状の郵送
回収数	・ 200 件（回収率 71.4%）

◆市民アンケート調査

項目	内容
目的	・ 農産物の購入方法、市内産農産物の購入実態、農地を近隣に持つ市民としての意見、農業振興上の課題等の把握
調査対象	・ 市民 2,000 名 ※20 歳以上の市民無作為抽出による。ただし、町別人口比率かつ年齢別に抽出。
配布回収方法	・ 郵送配布・郵送回収（平成 25 年（2013）2 月 5 日～2 月 25 日） ・ 督促状の郵送
回収数	・ 1,138 件（回収率 56.9%）

◆市民農園利用者アンケート調査

項目	内容
目的	・ 市民農園利用者の、市民農園に関する意向と意識の変化、農との触れ合いに関する意向把握
調査対象	・ 市民農園利用者（西原、中町市民農園利用者）107 名
配布回収方法	・ 郵送配布・郵送回収（平成 25 年（2013）2 月 5 日～2 月 25 日）
回収数	・ 76 件（回収率：71.0%）

◆商業者アンケート調査

項目	内容
目的	・ 市内産農産物の取扱い実態及び意向把握
調査対象	・ 市内の農産物を取り扱うスーパーマーケットや個人店舗等 60 店舗
配布回収方法	・ 郵送配布・郵送回収（平成 25 年（2013）2 月 5 日～2 月 19 日）
回収数	・ 10 件（回収率：16.7%）

① 農業経営の状況

- 営農種類、生産品目の変化を見ると、多くが変わらない状況が見える。また、露地野菜や植木では規模の縮小が目立つ状況にある。さらに、収入の変化としては、市場への出荷が減少し、直売所での販売が増加している方が多いことが伺え、全体として農業所得が減少している方が多い状況にある。
- 今後の取組みについては、特に何もしたくないという方の割合が多いものの、直売の比率が高まる中での出荷形態の多様化に注目する方は多く、併せて農産物の高付加価値化、生産技術の向上への意欲が見られる。

農業者

市民、市民農園
利用者、販売店

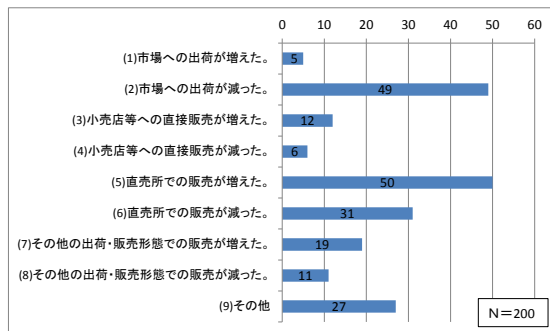
営農種類の変化

項目	変わらない	新たに はじめた	規模を 拡大した	規模を 縮小した	やめた
①露地野菜	件数 割合 85 61.2%	1 0.7%	4 2.9%	45 32.4%	4 2.9%
②施設野菜	件数 割合 22 48.9%	7 15.6%	9 20.0%	6 13.3%	1 2.2%
③果樹	件数 割合 37 66.1%	8 14.3%	5 8.9%	4 7.1%	2 3.6%
④花卉	件数 割合 11 50.0%	1 4.5%	2 9.1%	6 27.3%	2 9.1%
⑤植木	件数 割合 32 56.1%	0 0.0%	1 1.8%	20 36.1%	4 7.0%
⑥農園経営等(農業体験 農園、観光農園等)	件数 割合 4 40.0%	3 30.0%	1 10.0%	1 10.0%	1 10.0%

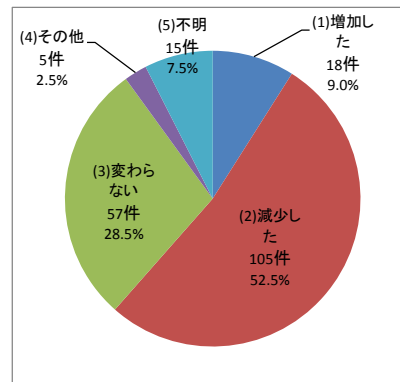
生産品目の変化

項目	件数	割合
(1)品目・生産量は変わらない。	85	42.5%
(2)品目数が増加した。	41	20.5%
(3)品目数が減少した。	42	21.0%
(4)大きく生産量が増加した品目がある	22	11.0%
(5)大きく生産が減少、もしくは生産をやめた品目がある。	44	22.0%
(6)その他	6	3.0%

農業に係る収入の変化【複数選択】

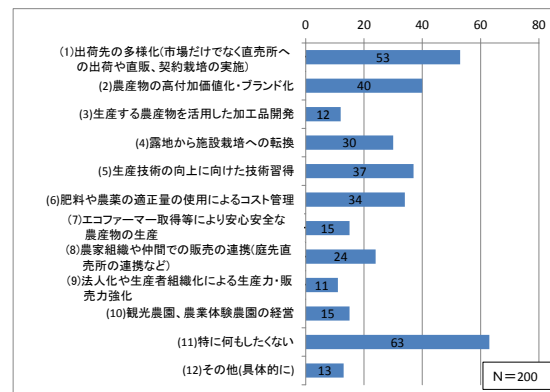


農業所得の変化



農業収入を安定させるために今後取組んでいきたいこと

【複数選択】



② 消費動向

- 市民の日常の農畜産物の購入は、スーパーマーケットや生協店舗が最も多く、次いで、市内の青果店や個人商店、直売所はそれに次ぐ。国内産であることへのこだわりは伺えるが、必ずしも市内産であることには注目されておらず、品質、価格が重視されることが伺える。
- 市内産の農産物購入の理由は、新鮮であること、購入する場所はスーパーマーケット・生協店舗が最も多く、それに次いで、市内の農産物直売所、庭先販売が挙げられている。

農業者	市民、市民農園利用者、販売店																																																																														
—	〔市民〕日頃の農畜産物の購入場所【上位3項目選択】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>購入場所</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1)市内の青果店や個人商店</td><td>442</td></tr> <tr><td>(2)市内のスーパーマーケット、生協店舗</td><td>1010</td></tr> <tr><td>(3)市外の青果店や個人商店、スーパーマーケット、生協店舗</td><td>327</td></tr> <tr><td>(4)コンビニエンスストア</td><td>111</td></tr> <tr><td>(5)市内の農産物直売所、庭先販売</td><td>346</td></tr> <tr><td>(6)市外の農産物直売所、庭先販売</td><td>58</td></tr> <tr><td>(7)市内のJAが行っている即売会</td><td>17</td></tr> <tr><td>(8)市外のJAが行っている即売会</td><td>7</td></tr> <tr><td>(9)生協等のグループ購入、宅配</td><td>174</td></tr> <tr><td>(10)生産者からの宅配</td><td>13</td></tr> <tr><td>(11)その他</td><td>25</td></tr> </tbody> </table> N=1,138 〔市民〕農畜産物を買う際に気にする点【上位3項目選択】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>気にする点</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1)国内産であること</td><td>817</td></tr> <tr><td>(2)西東京市内産であること</td><td>70</td></tr> <tr><td>(3)特定の地域産であること</td><td>113</td></tr> <tr><td>(4)品質が良いこと(新鮮であること)</td><td>963</td></tr> <tr><td>(5)価格が安いこと</td><td>657</td></tr> <tr><td>(6)有機農産物や特別栽培農産物であること</td><td>155</td></tr> <tr><td>(7)生産履歴が明確であること</td><td>48</td></tr> <tr><td>(8)生産者の顔がみえること</td><td>64</td></tr> <tr><td>(9)特に気にすることはない</td><td>57</td></tr> <tr><td>(10)その他</td><td>32</td></tr> </tbody> </table> N=1,138 〔市民〕市内産の農畜産物を購入する理由【複数選択】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>購入理由</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(0)市内産農産物を購入していない</td><td>243</td></tr> <tr><td>(1)生産者が分かって安心だから</td><td>233</td></tr> <tr><td>(2)地域の農業を守りたいから</td><td>139</td></tr> <tr><td>(3)品質・味が良いから</td><td>180</td></tr> <tr><td>(4)新鮮だから</td><td>431</td></tr> <tr><td>(5)安いから</td><td>195</td></tr> <tr><td>(6)その他</td><td>20</td></tr> </tbody> </table> N=1,138 〔市民〕市内産農産物を購入する場所【上位3項目選択】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>購入場所</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1)市内の青果店・個人商店</td><td>454</td></tr> <tr><td>(2)市内のスーパーマーケット、生協店舗</td><td>1,007</td></tr> <tr><td>(3)市外の青果店・個人商店、スーパーマーケット、生協店舗</td><td>169</td></tr> <tr><td>(4)市内の農産物直売所、庭先販売</td><td>880</td></tr> <tr><td>(5)JAが行っている即売会</td><td>77</td></tr> <tr><td>(6)農家や農家グループからの宅配</td><td>22</td></tr> <tr><td>(7)その他</td><td>47</td></tr> </tbody> </table> 点	購入場所	件数	(1)市内の青果店や個人商店	442	(2)市内のスーパーマーケット、生協店舗	1010	(3)市外の青果店や個人商店、スーパーマーケット、生協店舗	327	(4)コンビニエンスストア	111	(5)市内の農産物直売所、庭先販売	346	(6)市外の農産物直売所、庭先販売	58	(7)市内のJAが行っている即売会	17	(8)市外のJAが行っている即売会	7	(9)生協等のグループ購入、宅配	174	(10)生産者からの宅配	13	(11)その他	25	気にする点	件数	(1)国内産であること	817	(2)西東京市内産であること	70	(3)特定の地域産であること	113	(4)品質が良いこと(新鮮であること)	963	(5)価格が安いこと	657	(6)有機農産物や特別栽培農産物であること	155	(7)生産履歴が明確であること	48	(8)生産者の顔がみえること	64	(9)特に気にすることはない	57	(10)その他	32	購入理由	件数	(0)市内産農産物を購入していない	243	(1)生産者が分かって安心だから	233	(2)地域の農業を守りたいから	139	(3)品質・味が良いから	180	(4)新鮮だから	431	(5)安いから	195	(6)その他	20	購入場所	件数	(1)市内の青果店・個人商店	454	(2)市内のスーパーマーケット、生協店舗	1,007	(3)市外の青果店・個人商店、スーパーマーケット、生協店舗	169	(4)市内の農産物直売所、庭先販売	880	(5)JAが行っている即売会	77	(6)農家や農家グループからの宅配	22	(7)その他	47
購入場所	件数																																																																														
(1)市内の青果店や個人商店	442																																																																														
(2)市内のスーパーマーケット、生協店舗	1010																																																																														
(3)市外の青果店や個人商店、スーパーマーケット、生協店舗	327																																																																														
(4)コンビニエンスストア	111																																																																														
(5)市内の農産物直売所、庭先販売	346																																																																														
(6)市外の農産物直売所、庭先販売	58																																																																														
(7)市内のJAが行っている即売会	17																																																																														
(8)市外のJAが行っている即売会	7																																																																														
(9)生協等のグループ購入、宅配	174																																																																														
(10)生産者からの宅配	13																																																																														
(11)その他	25																																																																														
気にする点	件数																																																																														
(1)国内産であること	817																																																																														
(2)西東京市内産であること	70																																																																														
(3)特定の地域産であること	113																																																																														
(4)品質が良いこと(新鮮であること)	963																																																																														
(5)価格が安いこと	657																																																																														
(6)有機農産物や特別栽培農産物であること	155																																																																														
(7)生産履歴が明確であること	48																																																																														
(8)生産者の顔がみえること	64																																																																														
(9)特に気にすることはない	57																																																																														
(10)その他	32																																																																														
購入理由	件数																																																																														
(0)市内産農産物を購入していない	243																																																																														
(1)生産者が分かって安心だから	233																																																																														
(2)地域の農業を守りたいから	139																																																																														
(3)品質・味が良いから	180																																																																														
(4)新鮮だから	431																																																																														
(5)安いから	195																																																																														
(6)その他	20																																																																														
購入場所	件数																																																																														
(1)市内の青果店・個人商店	454																																																																														
(2)市内のスーパーマーケット、生協店舗	1,007																																																																														
(3)市外の青果店・個人商店、スーパーマーケット、生協店舗	169																																																																														
(4)市内の農産物直売所、庭先販売	880																																																																														
(5)JAが行っている即売会	77																																																																														
(6)農家や農家グループからの宅配	22																																																																														
(7)その他	47																																																																														

③ 農産物直売所について

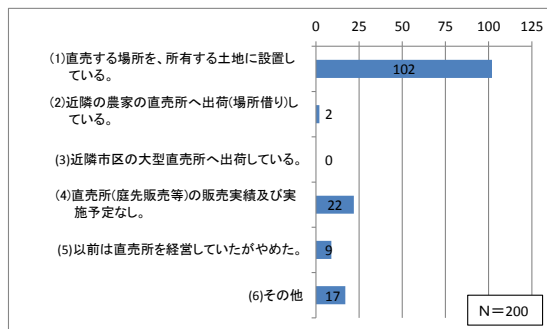
- 農業者の収入源として「直売所での販売」が多くの部分を占めており、一方で、多くの市民が直売所を利用している状況が見られる。**また、今後の直売所運営について、「自身の経営する直売所での販売を継続・拡大したい。」との回答が多く見られることから、「直売所での販売」が、今後も農作物の販路として重要である。
- 直売所を「利用したことがない」**市民の利用しない最も多い理由としては、「直売所の存在・場所を知らないから」**が挙げられる。農業者側にとっては、「固定客がいるので、現状以上の周知は必要ない。」という意見が最も多い一方で、「市やJAでも広く周知してほしい。」という回答も多く挙げられていることから、農業者に市民のニーズを理解していただき、直売所の周知方法を検討していく必要がある。

農業者

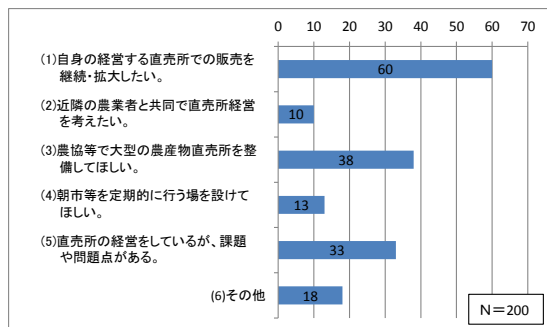
農業に関わる収入（出荷・販売、体験収入等）の内訳

項目	件数	割合	平均収入割合
(1)市場へ出荷	50	25.0%	51.5%
(2)農家組織や仲間での共同出荷	23	11.5%	37.2%
(3)市内小売店への直接販売	10	5.0%	33.0%
(4)学校給食へ出荷	9	4.5%	28.3%
(5)即売会等へ出荷	23	11.5%	19.9%
(6)自身の経営する庭先直売所での販売	114	57.0%	69.6%
(7)通信販売	3	1.5%	36.7%
(8)契約販売	15	7.5%	57.6%
(9)農園経営等	7	3.5%	50.0%
(10)その他	37	18.5%	66.2%

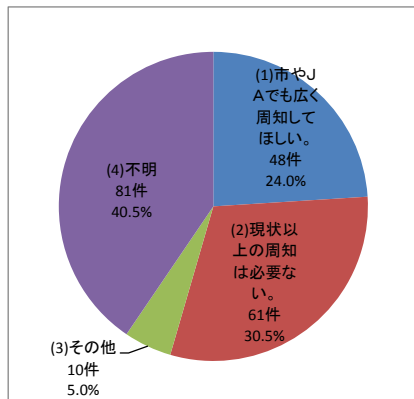
直売所での販売状況【複数選択】



直売所のあり方について【複数選択】

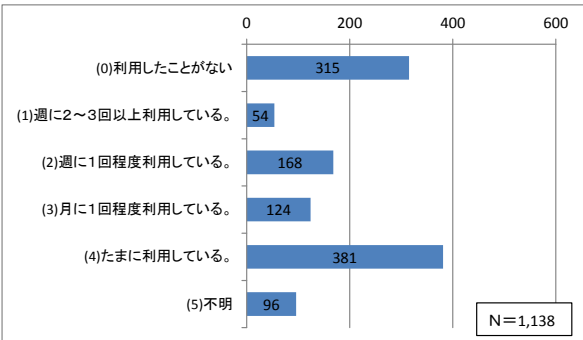


直売所の周知について

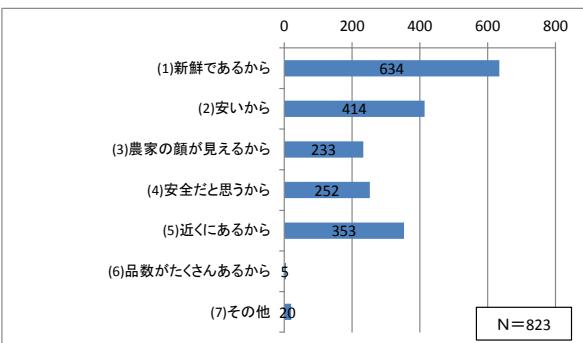


市民、市民農園利用者、販売店

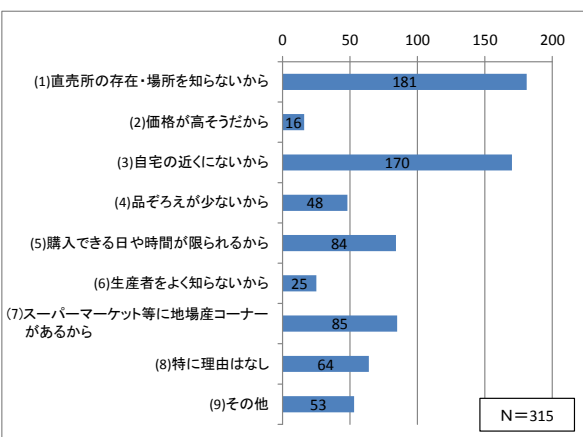
〔市民〕直売所の利用について



〔市民〕直売所を利用する理由【複数選択】



〔市民〕直売所を利用しない理由【複数選択】

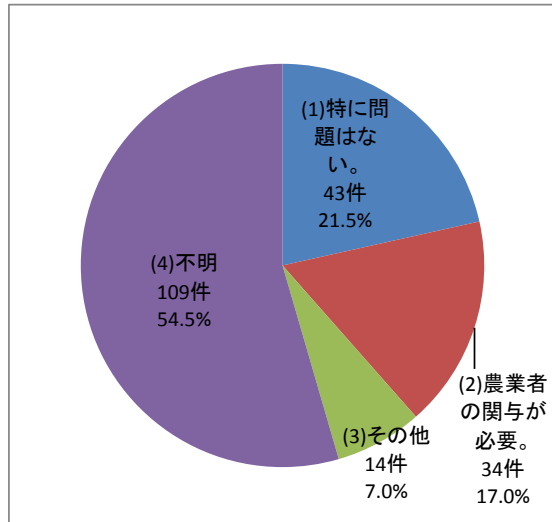


④ 市民農園や農業体験農園について

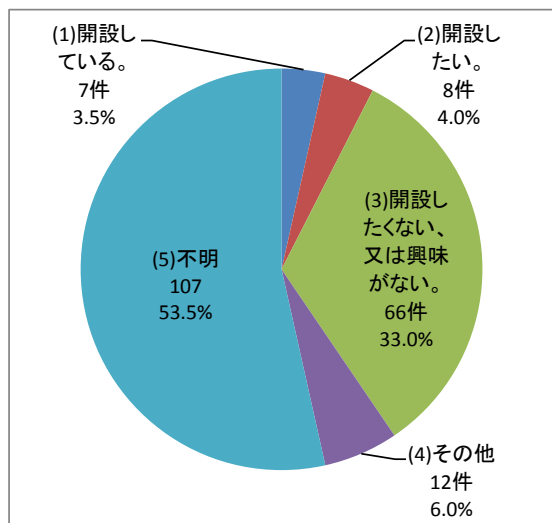
- 農業者意向調査、市民意向調査、並びに市民農園利用者意向調査ともに、「**市民農園**」の利用意向及び整備意向が高い。
- 一方で、農業者の関与が少ない「市民農園」にあつては、利用者のマナーの問題や、きちんと作付ができていない区画がある等の課題も抱えている（市民農園利用者意向調査の自由意見より）。そのため、**利用者を対象とした、農業に関する指導や講習会の実施等、何らかの形で農業者が関わりを持てる方策が求められる。**

農業者

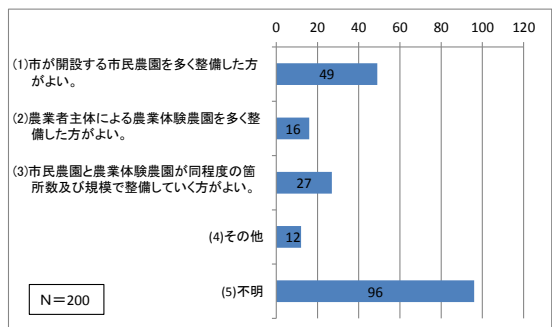
市民農園の運営について



農業体験農園の整備について

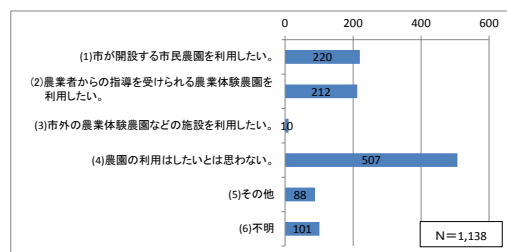


市民農園・農業体験農園の整備のあり方

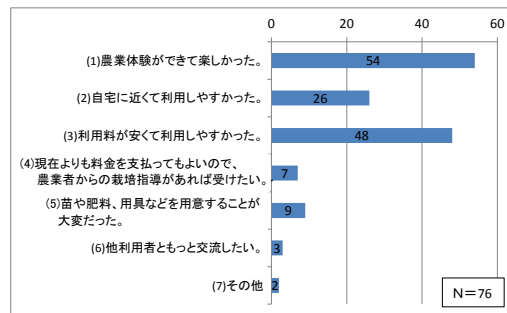


市民、市民農園利用者、販売店

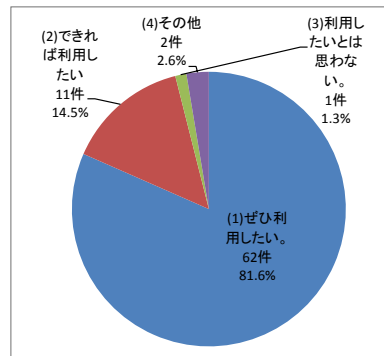
〔市民〕市民農園や農業体験農園の利用意向



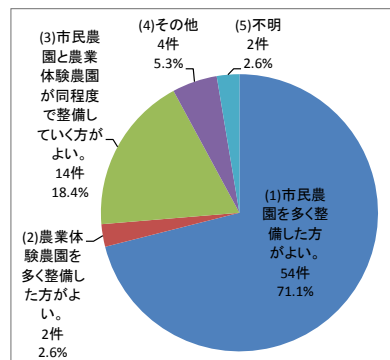
〔市民農園利用者〕市民農園を利用した感想【上位2項目選択】



〔市民農園利用者〕今後の市民農園の利用意向



〔市民農園利用者〕市民農園・農業体験農園の整備のあり方



〔市民農園利用者〕

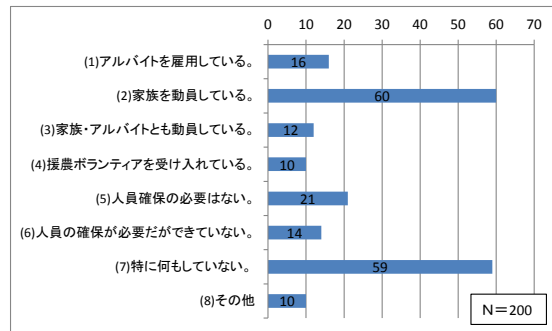
- 「耕作が難しい農地を市民農園に整備してはどうか」、「利用者を対象に、農業に関する指導や講習会が必要である」といった意見が挙げられている。

⑤ 農作業の担い手の確保

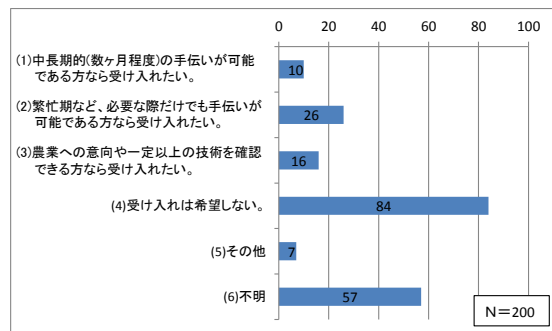
- アルバイトや、援農ボランティアを受け入れている農業者数は少なく、**多くは、家族経営**で行っている。
- 農業の規模（農業所得等）が、小さくない（100万円以上等）農業者の中には、アルバイトや、援農ボランティアの受け入れ意向は見られる。**繁忙期や除草の時期といった、農業者が欲する短期間の手伝いも含め、一定以上の技術を有する方を望んでいる。**
- 市民意向調査からは、農業や農作業の手伝いに興味がある方は、一定程度見られる。特に、「20歳代」、「30歳代」、「40歳代」といった**比較的若い年齢層で、援農ボランティアへの興味が高い**ものの、農業者が欲する時期に農作業の手伝いが可能かといった、適切なマッチングが必要である。

農業者

農作業の繁忙期等の人員確保の方法【複数選択】

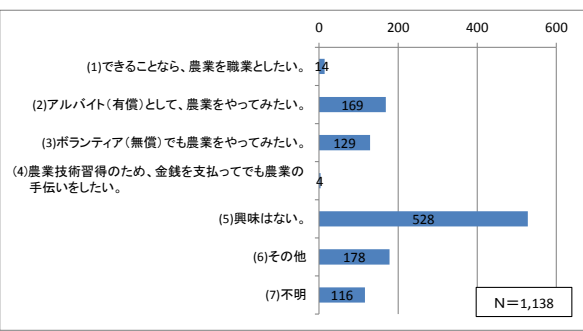


援農ボランティアの必要性



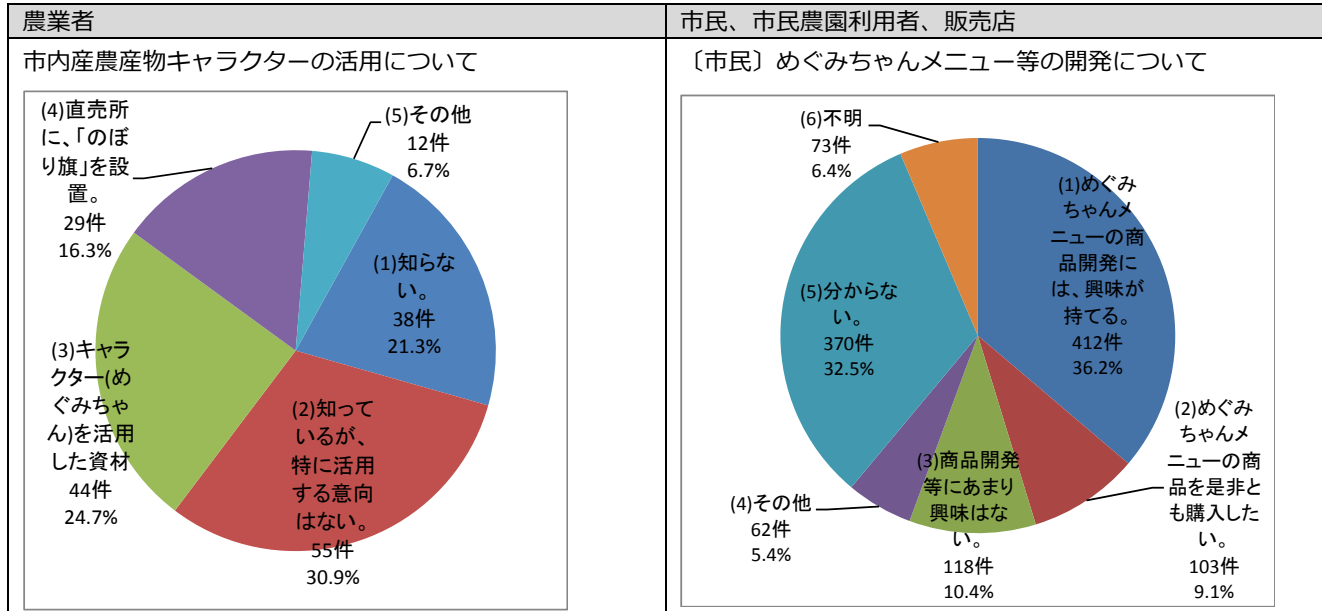
市民、市民農園利用者、販売店

〔市民〕農業や農作業の手伝いへの興味



⑥ 市内農産物キャラクター（めぐみちゃん）の活用

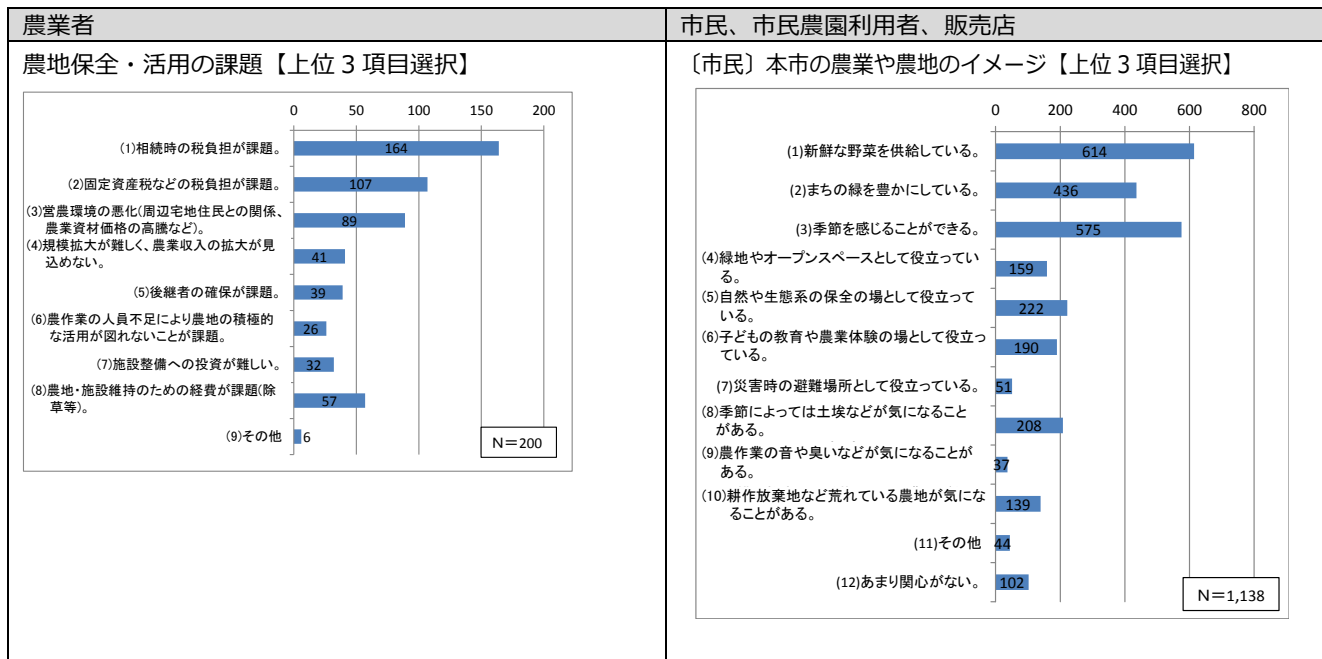
○市民意向として、めぐみちゃんメニューへの関心度合いは比較的高く、市内産農産物の活用が一定の効果があることが伺える。一方で、めぐみちゃんメニュー等に関して「分からない」という意見も回答者の30%強を占める。また、農業者にあっても、「めぐみちゃんを知らない」という意見が約2割を占めることから、農業者・市民双方へのめぐみちゃんメニュー等に一層の理解を求めること、及びPRを行うことが必要である。



⑦ 農地の保全・活用

○本市の農業や農地について、市民の中では、「新鮮な野菜を供給している。」といった、“安全な食の供給地”としてのイメージが最も強いこと、さらには、季節感や都市の緑の創出、生態系等の環境保全の役割や、子どもの教育等にも役立っているという意見が挙げられる等、都市農地が、市民の暮らしの中で大きな役割を果たしていることが伺える。

○一方で、税制面で都市農地を維持していくことが難しいことや、規模等の面から効率的な農業経営が困難であるといった、農地保全上の課題が、農業者から挙げられている。農地の保全に係る農業者側の課題・問題点を市民に正しく理解してもらうための支援が必要である。

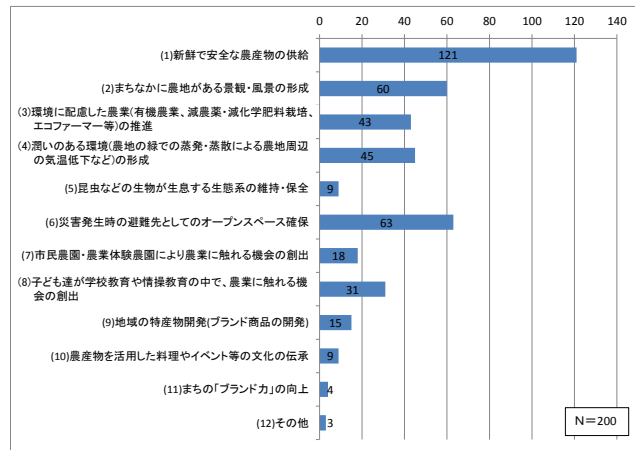


⑧ 農業・農地が有する機能

- 農業者、市民それぞれが、農業や農地が持つ役割として重要なこと（期待すること）として、双方とも、「**市民の日常生活への新鮮で安全な農産物の供給**」、「**まちなかに農地がある景観風景**」、「**潤いのある環境**」が上位に挙げられており、農業者と市民との間での、共通の意識が伺える。
- 一方で、農業者が重要な役割として位置付ける、「**災害発生時の避難先としてのオープンスペース確保**」、「**環境に配慮した農業の推進**」については、市民の中では、中位に位置付けられており、やや意識の隔たりが見られる。今後、農地の保全を考えていく上で、農業者と市民との意識の「差」を近づける取組みが必要である。

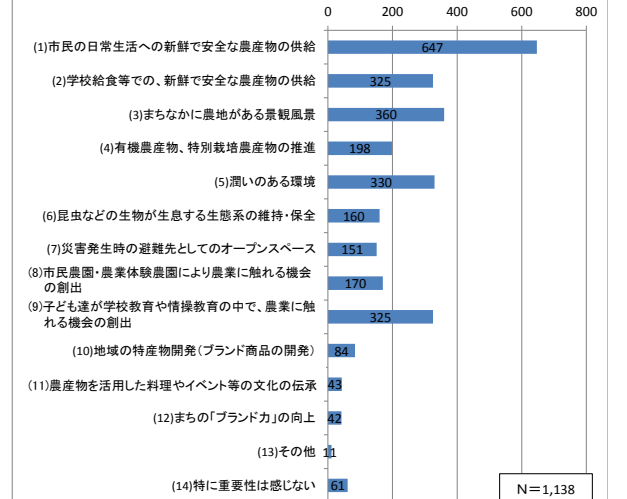
農業者

農業や農地が持つ役割として重要なこと【上位3項目選択】



市民、市民農園利用者、販売店

〔市民〕農業や農地が持つ役割として期待すること【上位3項目選択】

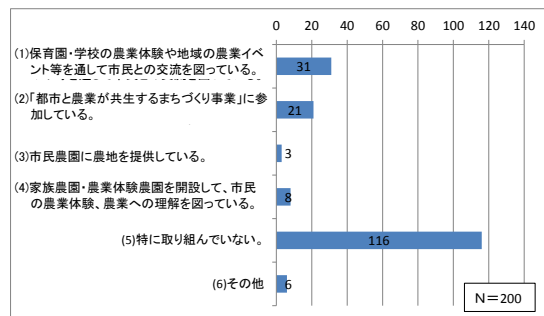


⑨ 農との触れ合い、市民との交流について

- 農業者、市民とも、農との触れ合い（市民との交流）を「**行っていない。**」人が過半数を占める。
- 農との触れ合い、市民との交流を深めることは、農業者にとっては、農産物の販売といった直接的な効果に加え、消費者のニーズの把握、さらには、営農意欲の向上等の効果が期待できる一方、市民にとっては、安全で新鮮な農産物を購入できる機会の創出、並びに、都市農業・農地の保全への理解増進につながる。また、市民が参加したい農との触れ合いを目的としたイベントは、市民の属性（年齢、性別、家族構成等）によって異なるため、参加対象も視野に入れたイベントの企画が望まれる。

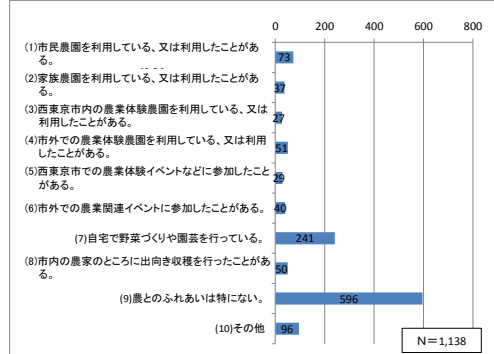
農業者

市民との交流の取組み【複数選択】

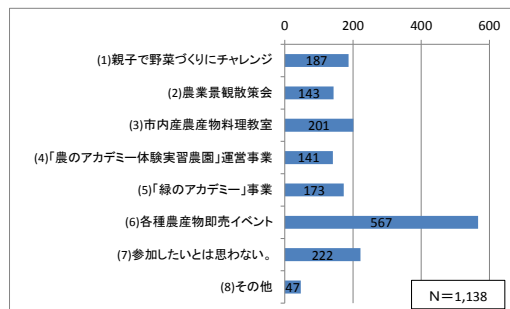


市民、市民農園利用者、販売店

〔市民〕農との触れ合いの経験【複数選択】

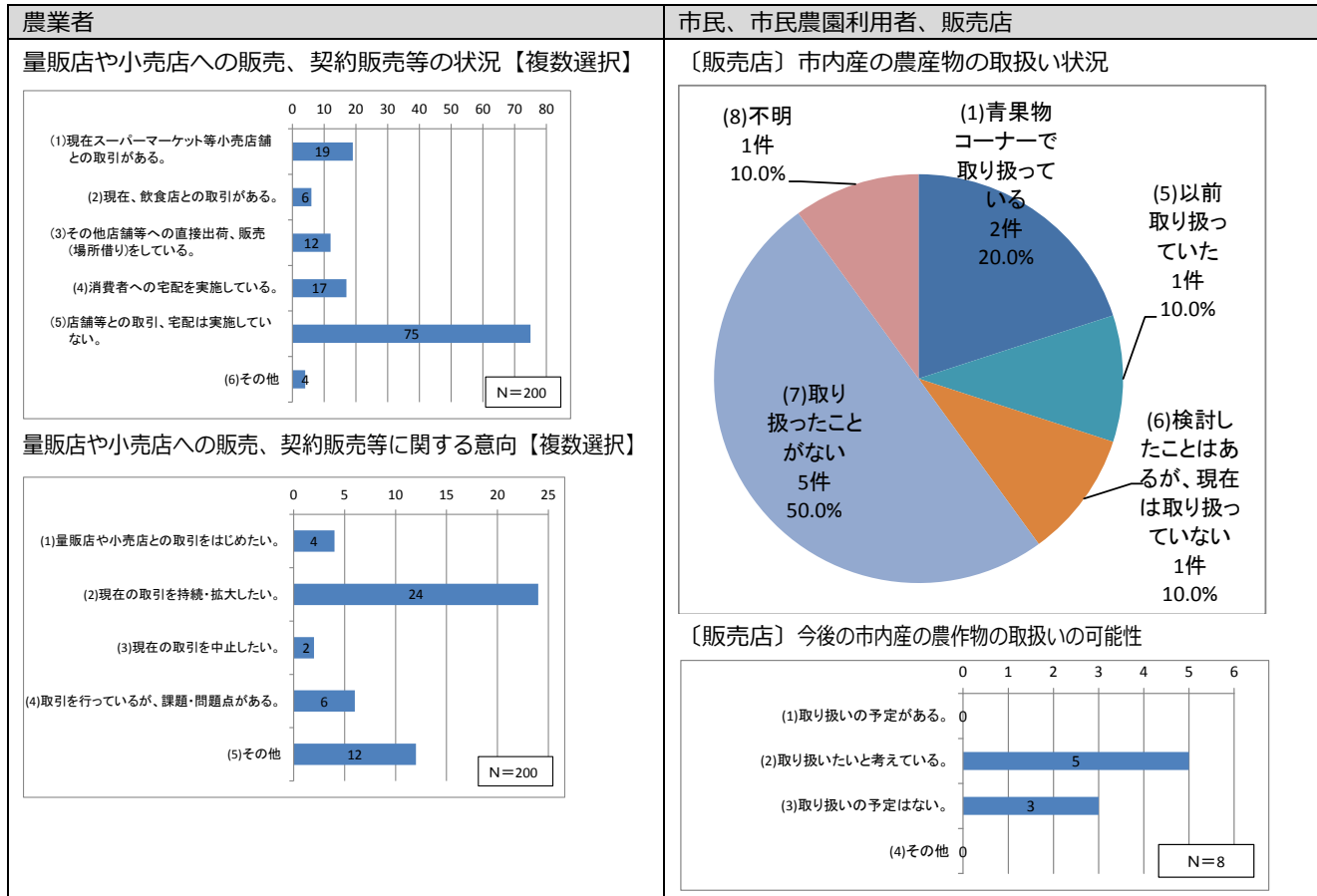


〔市民〕農との触れ合いを目的に参加したいイベント【複数選択】



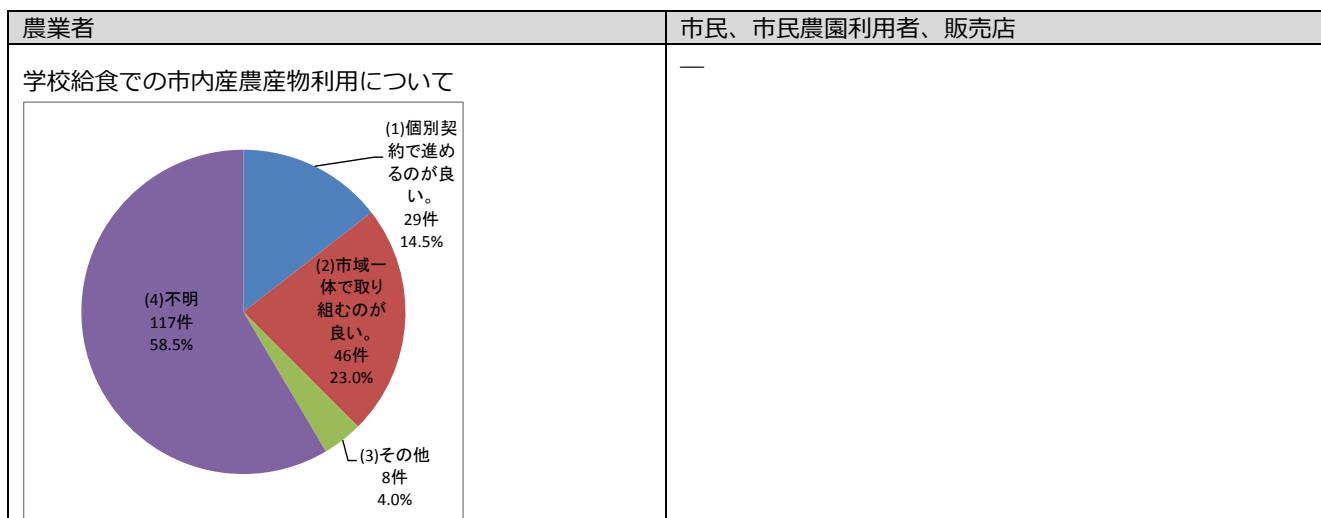
⑩ 量販店や小売店への販売・取引

- 「量販店や小売店への販売・取引を行っていない。」農業者、並びに、「市内産農産物を取り扱っていない。」量販店や小売店の割合が最も高い状況が見られる中、**量販店や小売店の中では、今後、「市内産農産物を取扱いたいと考えている」との回答も寄せられている。**
- 現在、量販店や小売店への販売・取引を行っている農業者にとっては、「**現在の取引を持続・拡大したい。**」との回答が最も多く挙げられているものの、「取引を始めたい。」と農業者は2.0%に過ぎず、また、「取引を行っているが、課題・問題点がある。」との回答も挙げられている。今後、農業者と量販店・小売店とのマッチングの仕組みについて、検討を行う必要がある。



⑪ 学校給食の状況

- JA等がとりまとめ、組織化等の仕組みづくりに市域一体で取組むのが良いという意見が多いことから、今後の仕組みとして検討する必要がある。



⑫ 農業者への支援

○支援対象として、**経営規模の大小に関わらず意欲ある方へ**という要望が多いこと、支援内容については、資金、情報、人的支援の順で要望が高い。現状の制度について、特に支援対象については検討の必要がある。

農業者	市民、市民農園利用者、販売店																										
農業者への支援対象について <table border="1"> <thead> <tr> <th>支援対象</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)経営規模(作付面積、販売金額)の大きな農業者には特に支援を充実すべき。</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>(2)認定農業者には広く支援を充実すべき。</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>(3)経営規模(作付面積、販売金額)の大小にかかわらず、意欲のある農業者への支援を行うべき。</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>(4)その他</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(5)不明</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table> 今後の農業者への支援について【上位2項目選択】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>支援内容</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)資金的支援(助成金、融資等)</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>(2)情報の支援(農産物PR、農業イベント等情報発信、生産技術情報提供等)</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>(3)人的支援(技術支援、経営支援、農作業支援など)</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>(4)その他(具体的に)</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table>	支援対象	数	(1)経営規模(作付面積、販売金額)の大きな農業者には特に支援を充実すべき。	8	(2)認定農業者には広く支援を充実すべき。	17	(3)経営規模(作付面積、販売金額)の大小にかかわらず、意欲のある農業者への支援を行うべき。	112	(4)その他	5	(5)不明	58	合計	200	支援内容	数	(1)資金的支援(助成金、融資等)	77	(2)情報の支援(農産物PR、農業イベント等情報発信、生産技術情報提供等)	54	(3)人的支援(技術支援、経営支援、農作業支援など)	32	(4)その他(具体的に)	9	合計	200	—
支援対象	数																										
(1)経営規模(作付面積、販売金額)の大きな農業者には特に支援を充実すべき。	8																										
(2)認定農業者には広く支援を充実すべき。	17																										
(3)経営規模(作付面積、販売金額)の大小にかかわらず、意欲のある農業者への支援を行うべき。	112																										
(4)その他	5																										
(5)不明	58																										
合計	200																										
支援内容	数																										
(1)資金的支援(助成金、融資等)	77																										
(2)情報の支援(農産物PR、農業イベント等情報発信、生産技術情報提供等)	54																										
(3)人的支援(技術支援、経営支援、農作業支援など)	32																										
(4)その他(具体的に)	9																										
合計	200																										

3 西東京市農業振興計画推進委員会

(1) 推進委員会委員からの提案事業について

本計画の策定に当たり、推進委員会において、各委員から農業振興に向けた様々な角度からの貴重な提案がされました。

これらの提案の趣旨を個別事業に盛り込み、検討事項とすることで、可能な限り今後の農業振興施策に反映することを望みます。

事業名	事業内容
軽トラ朝市	市内各小学校の校庭にて、毎週日曜日午前中に開催する。
まちの駅における販売	J Aが主導し、商工会と連携して商店街の空き店舗を活用。消費者ニーズを捉えた品揃えをする。
直取り野菜	農業者が市民を畑に呼び込み、市民が直に摘み取って買って帰る。
幼稚園・小学校における農業体験の充実	「農のアカデミー」の田無地区における開設を検討する。
共同直売所の設置検討	市内に共同直売所を設置することを検討する。
農地の適正な管理の促進	農業者が所有する農地において、肥培管理が困難な状況が発生した場合に、適正な耕作を支援及び指導するための体制の構築を図る。
農産物キャラクター（めぐみちゃん）の市民へのPR活動	①キャラクターグッズの販売 ②キャラクターデザイン・データの提供環境の整備
安全安心農業推進事業の対象拡大	①パイプハウスビニール（UVカットフィルム） ②サンサンネット ③除草シート ④ビニールマルチ（分解型） ⑤農薬（エコファーマーでカウントされない農薬） ⑥肥料（対象の拡大） ⑦東京都のエコファーマー取得者への補助制度の確立
市内産農産物等活用推進事業（めぐみちゃんマーク入り）の対象拡大	植木生産販売で必要なポット・鉢等
農業を支援する市民組織の形成	援農に限らず、直売所や即売会での販売支援等を含め、農業者と消費者をつなぎ、農業を支援する仕組みづくりを図る。
即売会の充実	J Aの敷地内で行っている「即売会」について、実施時間及び参加農業者の拡充を図る。
認定農業者経営支援事業	認定農業者の経営改善計画を実現するための補助事業を実施
学校給食への地場産野菜の納入促進	①納入に係る経費補助（人件費・運賃） ②納入野菜の価格補助
栽培モデル区画付き市民農園支援	プロの農業者による「栽培見本区画」を設け、基本的には技術を教示し、野菜づくりの本来の楽しさである「自由さ」を大切に市民農園を設ける。
農産物加工料理グランプリ	市内産の農産物を使用した料理加工コンクールを実施（市内高校・大学、主婦）

(2) 西東京市の農業を持続するための提案 ～都市農地に係る税制について～

推進委員会は、第2次西東京市農業振興計画を策定するに当たり、第1次の農業振興計画の振り返りや時代潮流の変化のほか、ヒアリング・アンケート結果によるニーズの把握等を基に、様々な角度から検討を行うとともに、委員相互の闊達な議論を交わす中で、本報告書を作成しました。

その議論の過程において、大きな壁となったのが税制の問題です。

税制は、国税はもとより地方税についても、地方税法により仕組みが構築されており、地方公共団体や推進委員会には議論の余地のないところにあります。

本市は、三大都市圏に位置し、土地の資産価値も高い水準にある中で、農業者が農業を営んでいる現状にあります。そして、その資産価値は固定資産税や都市計画税のほか、相続税に直接反映されます。

固定資産税・都市計画税において、生産緑地は農地評価・農地課税により一定の軽減措置が適用されていますが、市街化区域農地（宅地化農地）は宅地評価・宅地並み課税となり、税額は桁違いに高くなります。

相続税も、固定資産税が地価公示価格の7割を目途に評価されるのに対し、相続税のそれは8割評価となっています。

また、相続が生じた場合、生産緑地は終身営農でなければ相続税の納税猶予制度が適用とならないこと等、農業者が農業を続けるためには厳しい課題が山積しています。

これらのことは、農業者にとって、将来に渡り農業を続けることへの大きな壁となっています。

したがって、税制の仕組みの中で都市において農業が続けられるような措置を講じていただくことを強く求めるものです。

そのことにより、後継者や担い手が次々と誕生し、農業が安定的に持続できる状況が創出できれば、都市農業はまだまだ発展する余地があり、そのための取組みは、地方公共団体や私たち推進委員会が担う部分であると考えます。

推進委員会は、次代を担う子供達をはじめ、市民や多くの消費者の方々に身近で生産された農産物を提供できる環境をこれからも継続することを切に願い、ここに提案します。